



IBJ防除情報

(*は、Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)

第9号



困っているんだ〜

いまどきの防除

(病害虫の発生予察と薬剤による防除対策)

- 農水省は11月10日、向こう1か月の主要病害虫発生予報を発表しました。その中から主な作物を対象に、発生が「多い」と発表された病害虫とその地域及び防除農薬(当社の推奨農薬)を一表に纏めましたので推進のご参考にして下さい。

注) FL:フロアブル 水:水和剤 乳:乳剤 DF:ドライフロアブル 粒:粒剤

作物別	病害虫名	発生が「多い」地域	防除農薬(当社推奨農薬)
野菜	ねぎ	アザミウマ類	ウララDF、アタブロン乳、ガゼット粒
	いちご	アブラムシ類	ウララDF、ガゼット粒
	トマト	葉かび病	ドーシャスFL、カリグリーン

*使用に当たっては、製品ラベルをよく読み、登録内容の確認を充分に行ってください。

*展着剤を使用する場合は「まくびか」をお奨めします。



新しい農薬です

IBJの新農薬

(適用拡大を含む)

- 本年10月11日～11月10日までの間に、登録された新農薬(適用拡大を含む)は、次の通りです。

登録日	薬剤名	登録内容(適用拡大を含む)のあらまし	
		対象作物	内容
23.10.12	ミニタンWG (微生物農薬)	にんにく	<ul style="list-style-type: none"> ・適用病害:黒腐菌核病 ・使用薬量800g/10a ・希釈水量100L/10a ・使用時期:植付前 ・使用方法:全面散布土壌混和
23.10.26	クロロIPC (畑作除草剤)	はくさい	・2作物共、登録削除。
		デントコーン	
	エスレル10 (植物成長調節剤)	西洋なし (ラ・フランス)	・エテホンを含む農薬の総使用回数を「1回」に変更。
23.10.26	ワンホープ乳剤 (畑作除草剤)	パイナップル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用目的「熟期促進」を登録削除。 ・エテホンを含む農薬の総使用回数及び本剤の使用回数を「1回」に変更。
		飼料用とうもろこし	<ul style="list-style-type: none"> ・適用雑草名を「畑地一年生雑草、シバムギ、レッドトップ」から「一年生雑草、多年生イネ科雑草」に拡大。

※詳しくは当社支店へお問合せください。

なんで??

どうして??



防除に関するQ&A

Q. 水稲用除草剤の農業登録票の適用雑草名に、具体的な雑草名とは別に「水田一年生雑草」と有りますが、これには具体的な雑草名で言うと、何が含まれるのですか。

A. 一年生雑草とは、一年で種子から発芽し、成長し、開花し、種子を残して枯れてしまう雑草で、地上部あるいは地下の一部が2年目以降も生き続け、そこからまた成長する多年生雑草と区別した言い方です。

水田雑草は、イネ科・カヤツリグサ科・広葉雑草に大別されて説明される場合がありますが、「水田一年生雑草」にはその全てが含まれており、代表的な雑草は下表の通りです。

併せて、水田多年生雑草の主なものも参考に載せています。除草剤は各々の雑草別に農業登録を取得する為、適用雑草名も個々の雑草名になっています。

	イネ科	カヤツリグサ科	広葉
水田一年生雑草	ノビエ(タイヌビエ、イヌビエ)	タマガヤツリ	コナギ、ミズアオイ、アゼナ、アメリカアゼナ、アゼトウガラシ、ミゾハコベ、キカシグサ、ヒメミソハギ、タウコギ、タカサブロウ、アメリカセンダングサ、クサネム、イボクサ
水田多年生雑草	アシカキ、キシウスズメノヒエ、エゾノサヤマカグサ	ミズガヤツリ、マツバイ、クログワイ、イヌホタルイ、シズイ、コウキヤガラ	ウリカワ、ヘラオモダカ、オモダカ、セリ、ヒルムシロ

ご説明します。

どんなこと?どういう意味?(用語解説)

浸透移行性と浸達性

- 「**浸透移行性**」とは、主に殺虫剤で使われる用語で**散布したり根元に施した薬剤の成分が、根や葉から吸収され、植物の体の各部に移って行く性質のこと**です。害虫に薬剤が直接かからなくても、食害すると殺虫効果が得られます。
吸汁性、食害性の広範囲の害虫に効果があり、害虫退治と予防が一度にできます。
- 「**浸達性**」とは、浸透移行性程は広範囲に移行しませんが**葉表から葉裏へ、葉裏から葉表へ程度はしみ透る性質のこと**です。殺菌剤で使われることの多い用語で、**葉の片面にしか散布液がかからなくても、葉の内側に浸透し、もう一方の葉面も病害から守ります。**

浸透移行性・浸達性を有する薬剤は、一般に、残効性、耐雨性に優れます。又、散布むらに因る効果の振れが抑えられます。弊社製品では、**ウララDF・ネマトリンエース粒剤等が浸透移行性の高い薬剤と言えます。又、トリフミン水和剤・乳剤は、浸達性に優れます。**

浸透移行性

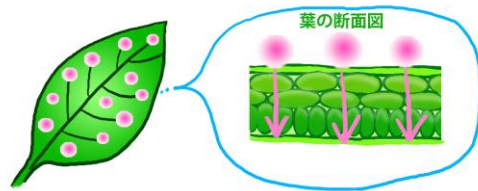


根から吸い上がった成分が葉に移行



葉に散布した成分が他の枝の葉や新芽・新葉へ移行

浸達性



葉の片面に散布した成分がもう一方の面までしみ渡る



ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 普及部
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号
TEL 03-5844-6320 FAX03-3812-6548

ホームページ アドレス <http://www.iskweb.co.jp/ibj/>